

## 4月15日 第1回所長講話「求められている21世紀型能力」

所内研修の中の「所長講話」は、2ヶ月に1回のペースで実施します。

第1回目は、「求められている21世紀型能力」という講話題で、グローバル化、資源の有限化、少子高齢化の進む社会の変化の中で、求められる人材は、他者との関わりを持てるコミュニケーション能力、情報を的確に入手し、分析、統合し、新しいアイデアを生み出す資質・能力を備え、知識を使ってクリエイティブに対応できる能力と他者と協力したり、競争したり、繋がることの出来る能力が備わっていることが必要になっています。その人材を育てるために、「21世紀型の能力」を念頭に置きながら、学んだ知識を実生活や実社会で「どう使うのか」という視点を持ち、「何を知っているか」から「何ができるか」、へと教育の重点を移し、教育の内容、方法、評価の改善をする必要があります。それが、教育研究員皆さんの研究のテーマとも大きく関わってくることで、熱くお話ししてくださいました。

## 【所長講話の主な内容】

## 1 社会の変化

## (1) 社会の変化と求められる人材像

課題・・・グローバル化、資源の有限化、少子高齢化  
解決策・・・知識基盤社会の進展  
コミュニティを基盤とする社会への転換  
情報通信技術 (ICT) の高度化と利活用

## (2) 日本の強みと新しい社会の姿

## (3) 日本の近年の教育政策と社会の変化

- 教育は経済・社会に左右されない固有の普遍的な理念
- 理念の具現化においては、社会の**変化**と無関係ではない。

## (4) 教育課程編成への示唆

## 2 「21世紀型能力」

## (1) 教育課程の編成原理と「21世紀型能力」

## (2) 基礎力…言語、数、情報 (ICT) を目的に応じて道具として使いこなすスキル

## (3) 思考力…「教育課程編成への示唆」で求められている力

## (4) 実践力…思考力の使い方を方向付け、実生活で活用する能力

## 3 「21世紀型能力」と日本の教育課程

- 「何を知っているか」から「何ができるか」へ教育の重点を移す
- 「基本的な知識及び能力」
- 「課題解決の思考力・判断力・表現力」
- 「主体的に学習に取り組む態度」

## 4 子どもをとらえる視点

「子どもは、いろんな事を考えたり学んだりできる」



写真1 所長講話



写真2 真剣に聞き入る教育研究員

## 【教育研究員の感想】(研修日誌から)

私の理解力の不十分さから、幼稚園教育にも通ずる大切なことが述べられていることはわかりながら、その場では実感として頭の中に落とし切れなかった部分があったのもう一度所長のお話を振り返りながら、資料を読み込みました。すると求められている21世紀型能力には、「他者との関わり」「他者と協働・協調する」という言葉が何度も出てくることに気づきました。「人とかかわる力の育成」こそ私が今進めている研究なので、それがその後の教育や生涯を通して大切とされるということに、人格の基礎を培う教育である幼稚園教育の中で十分に育てていかなければならないことだと改めて感じました。「人とかかわることが心地よい、楽しい」と思えることで人とのかかわりを深めていけるであろうと思うので、子どもたちがそう思うようになるには、どういった手立てが必要なのか、今日の講話から、「人とかかわる力」を育てるための研究を深めていきたいという思いが更に強くなりました。

(金城さくら)

社会が急速に変化しているために、多くの社会的課題が浮かび上がっている現在の状況に望まれる人間像。その望まれる人間像を育成するため、教育界はどういう対応をすべきなのか。

21世紀を生きぬくための能力とは、「基礎力」「思考力」を基盤とした「実践力」である。「何がわかる」ではなく「何ができる」この言葉は私たち教師がどのような児童生徒を育成すべきかを示している。実践できる実践力を育成していくために必要な力を我々は授業を通してつけていく必要があるんだと感じました。

その力を育成するためには児童生徒の「主体的に学習する力」の育成が不可欠だと感じました。その「主体的に学習する力」をつけるような授業展開を考えていきたいと思います。(大城厚)

所長講話の中で印象に残っていることは、①教育政策や指導要領等を読んでいくときの視点の持ち方(一文や短い言葉に書かれていることを自分の実践と照らし合わせて深く読み取っていくことが大事)、②変化する社会に対応した教育課程の編成の中で目指す児童像、③そのためにどこに焦点化させて授業を作っていくか、ということです。

今、私が研究で進めていこうとしていることに直結していることであつたので、納得しながら、またさらに、道徳の授業をイメージしながら聴くことができました。今、求められている21世紀型能力を子どもたちに身につけさせるために、「現実のリアルな課題」を扱ったり、「学習を体験・実生活に生かし」たり、「よりよい選択肢や納得解を探求していく」などのしかけを授業で仕組んでいくことの大切さを再確認できました。これまでの教育や実践を振り返って反省し、社会に対応する新たな取り組み、新たな授業展開を工夫開発していきたいです。(長門照乃)

「子どもたちにどのような力をつけさせたいのか?」、4月から研修を始めて常に頭の中では、分かっているつもりだけど、何が根拠であるのかをはっきりとせずモヤモヤとした気持ちが講話まで心の中にありました。しかし、雅志所長の話聞いて、自分がやりたいことは間違っていないし、研究を進めても大丈夫だと少し自信ができました。それと同時にやりたいことを理論を立てて説明しないとけないと思い、少し焦りも出てきました。

話を聞きながら、「この場合、体育の授業だとかこういうことなのかな?」とイメージしたことをメモに書き出してみると、一つ一つの活動が「基礎力→思考力→実践力」につながっていることに気づくことができました。ある研究によると、「考えを練り合い、話し合う活動で知識が定着する」という結果があるのです。この3つの学力を子どもたちに身につけさせる授業を作っていくのが楽しみになりました。(具志堅智美)

所長の講話をききながら感じたことは、自分の研究テーマ「生徒が主体的に学習する態度を育てる指導の工夫」が今の学校現場に求められていることをあらためて考えました。めまぐるしく変容する社会に対応する力を身につけさせるには、知識・技能だけでなく、自分のおかれている状況を判断し、今もっている力で何ができるのかを考え、他者とのコミュニケーションをとりながらよりよい解決方法を見いだしていく力が求められていることがよく分かりました。

私の研究では、「主体的に学習する生徒を育てる」をテーマに、数学的活動の「見いだす活動」と「説明し伝え合う活動」を普段の授業で継続的に実践していこうと考えています。また、既習事項と関連させて考える力を身につけさせたり、目的意識を持たせるために、「めあての設定の仕方」についても研究しています。

目標を持つことの大切さ、目標をもつことで主体的に学ぶことができると考えています。知識・技能の定着についても、「教え込み(注入)」ではなく、「数学的活動」をとり入れることによる定着を考えていきたいです。

この講話で、自分の研究の方向性に自信を持つことができたとともに、研究の重要性も確認することができました。(古屋誠一)